

第1章 研究の概要

1. 研究の目的

本研究は、平成3年度から4年間続いた特別研究「教科学習に特異な困難を示す児童生徒の類型化と指導法の研究」、また平成7年度から10年度まで継続された特別研究「学習困難児の指導方法に関する実証的研究」を受けて、さらに研究を深め、学習障害児の評価と判断、適切な指導方法、およびその支援体制に関してより実証的な成果を得るために企画された。

2. 研究の枠組み

1) これまでの研究成果

国立特殊教育総合研究所における研究の枠組みは種々あるが、既存の研究部の所管事項を越える研究課題の場合は、特別研究として企画され、実施されている。その特別研究のひとつに「教科学習に特異な困難を示す児童・生徒の類型化と指導法の研究（平成3－6年度）」があった。この研究の成果の中でも、特に注目されたのは、小学5、6年生の10%弱に、国語あるいは算数の両者あるいはどちらかで、2学年以上の遅れがあると担任教師が判断している事実を明らかにした調査報告であった。これらのすべてが学習障害児であるとは考えられないが、小学生の学習困難の実態を示す数値として、後に続く研究にあらたな知見と影響を与えることとなった。

さらに継続的に研究をすすめることになり、特別研究「学習困難児の指導方法に関する実証的研究（平成7－10年度）」が企画された。この研究では、学習障害という概念に限定せず、その周辺の問題も含む「学習困難」という、より広義の概念を用いた。すなわち、学習困難児とは、主に、通常の学級で学ぶ（在籍は特殊学級例も含む）学習上で困難を示す児童・生徒を指す。そこには、学習障害児はもちろんのこと、行動面や情緒面で困難を示す児童・生徒も含まれていた。また、この研究の特徴は、アセスメントの在り方、児童への指導・支援、学校への支援、家庭・地域での支援という、総合的な支援とシステムをテーマにした点である。

ほぼ同時期に、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）による「学習に困難を示す児童生徒の指導方法と援助システムの開発に関する共同研究（平成7－9年度）」が並行して実施された。ここでは learning disabilities：LD（学習障害）概念を特殊教育の中に位置付けて対処している米国とカナダ、一方、学習障害概念を使用せずに同様の子どもたちに対応している

豪州とニュージーランド、これら4カ国の特殊教育関係の専門家との共同研究を実施した。いわば国内研究を特別研究が、国際研究を前述の国際学術研究がそれぞれ担うという、両輪のような研究体制がひかれたのである。このような学習障害についての学問的検討、事例を基にした文献研究、そして国際的視点からの検討等の研究成果は今期の特別研究の基礎となったことは言うまでもない。同時に、我が国において、学習障害あるいは学習困難をいかに評価・判断し、いかなる教育的対応をしていくべきかの重要かつ実践的な課題は、本研究へと引き継がれて検討されることとなった。

2) 基本方針

第3期目をむかえた本研究の特徴をあげるならば次の2点となる。第1に、過去2期の特別研究の課題名で扱われたのが「教科学習に特異な困難を示す児童・生徒」と「学習困難児」であったが、今回は明確に「学習障害児」としたことである。特別研究が連続3期に渡って、同様のテーマを扱うこともまれだが、そのつど用いる語が変更されるもの異例であろう。この事実、学習障害児の実態は何かという、繰り返し提起され、議論される課題に対応している所以でもある。しかし、2期8年の研究は学習障害の概念の理解を深め、その一致を得るために必要な時間であったとも言える。

第2に、本研究は、その開始直後の平成11年7月に公表された学習障害及びこれに類似する学習上の困難を有する児童生徒の指導方法に関する調査研究協力者会議による「学習障害児に対する指導について（報告）」に対応するものでもある。報告書の中では「・・・具体的な指導方法を体系化し、一層効果的にするものとするため、今後、国立特殊教育総合研究所において、内外の各方面での実施されている研究の成果を取りまとめていくことが望まれる（7ページ）」と記載され、指導の形態と場についても通常の学級およびそれ以外の場における指導に関する国立特殊教育総合研究所での研究へ期待が示されている。3期目の特別研究において、これらの課題のすべてに結論を得るのは困難だが、可能な限り実証的な成果を示すことを目指すものである。

3) 枠組み

(1) 学習障害の実態把握・判定基準の検討を行う。前述の最終報告書の判断・実態把握基準（試案）（校内委員会と都道府県・政令指定都市レベルに設置される専門家チームとの協力体制）に沿って、その実効性と有用性を検証していく。

(2) 学習障害児への個別の指導計画の作成、TTの

活用、適切な指導の場の選択さらにこれらの児童生徒を指導する教師がそなえるべき資質についても検討する。なお、前回の特別研究は小学生主体であったが、中学生も研究対象とする。

(3) 研究協力校と共同で、学習障害児等への小中学校での校内支援体制の構築の試行をする。その際、通級指導教室、特殊学級、養護学校、教育センター等の活用方法も検討する。

＊平成13年度より、特別研究はプロジェクト研究と名称を変更している。

3. 研究の経過

□ 研究の進め方

- ・月に一度の全体会を開き、研究の計画・推進についての検討と報告を行う。
- ・研究協力者および外部講師を招き、学習・協議を行う。

【平成11年度】

平成11年

4月

○推進班の打ち合わせ・研究計画の検討等
(推進班の打ち合わせは、以降随時行う)

5月

○全体会
・研究の概要について：目的・推進体制・研究計画等

6月

○全体会
・研究計画および予算について
○学習・協議会
「学習障害（学習障害）問題への東京都の取り組み」
砥柄敬三氏 東京都立教育研究所

7月

○全体会
・文部省の調査研究協力者会議の報告
・研究計画について：事例研究、調査研究(ex. ティームティーチング：TT)、学習困難調査票

○学習・協議会
「学力とは ～学力の評価～」

有元秀文氏（国立教育研究所 国語教育研究）
長崎榮三氏（国立教育研究所 科学教育研究室）

9月

○全体会

- ・事例研究の進捗状況
- ・TT 調査研究の進捗状況
- ・学習困難調査票の進捗状況

10月

○全体会
・事例研究の進捗状況
・TT 調査研究の進捗状況
・学習困難調査票の進捗状況

○講演会

「米国におけるLD児担当の教員養成の実際」

Dr. Sharon Vaughn（米国テキサス大学 特殊教育
学教室）

11月

○全体会
・TT 調査研究の進捗状況
・事例研究の進捗状況
・学習困難調査票の進捗状況

12月

○全体会
・調査研究の進捗状況
・事例研究の進捗状況
・学習困難調査票の進捗状況
・研究協議会日程調整 3月17日に決定

平成12年

1月

○全体会
・調査研究の進捗状況
・事例研究の進捗状況
・学習困難調査票の進捗状況
・研究協議会の準備（役割分担など）
○学習・協議会
「学習障害（学習障害）を支援するシステム・学校心理学の視点」 石隈利紀氏（筑波大学心理学系）

2月

○全体会
・事例研究の進捗状況
・調査研究の進捗状況
・学習困難調査票の進捗状況
・研究協議会の準備（プログラムの検討など）

3月

○全体会
・事例研究の進捗状況
・調査研究の進捗状況
・学習困難調査票の進捗状況
・巡回指導等支援事業の実地調査報告
・研究協議会の準備（最終確認）
・平成12年度 研究協力機関の検討

○研究協議会開催 3月17日

【平成12年度】

平成12年

4月

○全体会

- ・平成11年度研究協議会の反省
- ・平成12年度の研究計画の検討
- ・事例研究T T調査、学習困難票の研究分担
- ・神奈川県実践研究事業(文部省委嘱事業)との連携
- ・平成12年度の研究協力者及び研究協力機関の決定

5月

○全体会

- ・事例研究の進捗状況
- ・T T調査の進捗状況
- ・学習困難票の進捗状況の報告
- ・神奈川県(文部省委嘱事業推進)との共同研究の開始：第1回打ち合わせ会の報告

6月

○全体会

- ・神奈川県研究協力校との打ち合わせ：今年度の研究計画について
- ・事例研究の進捗状況
- ・T T調査の進捗状況
- ・学習困難調査票の進捗状況
- ・原部長による在外研究の報告(シドニー)

7月

○全体会

- ・神奈川県との連携：研究協力校の児童指導部会と校内委員会、専門家チームとしての関わり
- ・事例研究の進捗状況
- ・T T調査の進捗状況
- ・学習困難調査票の進捗状況
- ・平成12年度の後半の研究計画について：研究協力者による講演、巡回指導実践県への訪問等

9月

○全体会

- ・研究協力校 研究協力校への巡回指導員の派遣
- ・横須賀市との連携
- ・事例研究の進捗状況
- ・T T調査の進捗状況：文献研究
- ・学習困難調査票の進捗状況：全国都道府県・政令指定都市特殊教育センターを対象とした「学習障害の実態把握に関するアンケート調査」の実施計画

10月

○全体会

- ・事例研究の進捗状況

・T T調査の進捗状況

・「学習障害の実態把握に関するアンケート調査」の実施

・平成12年度研究協議会の日程とプログラムの検討

11月

○全体会

- ・平成12年度の研究協議会：プログラムの検討
- ・研究協力校における全体研修会の開催
- 事例研究の進捗状況
- ・T T文献研究の進捗状況

12月

○全体会

- ・神奈川県との共同研究：研究協力校での保護者への説明の必要性
- ・平成12年度研究協議会の準備・プログラム
- ・事例研究の進捗状況の報告
- ・T T文献研究の進捗状況
- ・「学習障害の実態把握に関するアンケート調査」の結果報告
- ・平成13年度の研究協力機関と研究協力者

平成13年

1月

○研究協議会開催 1月12日

2月

○全体会

- ・12年度協議会の反省
- ・神奈川県との共同研究
- ・事例研究の進捗状況
- ・学習困難調査票
- ・13年度研究計画：実施計画と予算

○学習・協議会

「読み書き障害の指導」大石敬子氏(国際福祉医療大学)

3月

○全体会

- ・神奈川県との共同研究
- ・学習困難調査票

【平成13年度】

平成13年

4月

○全体会

- ・13年度の体制と計画
- ・神奈川県との共同研究(文部科学省委嘱事業)の今年度計画
- ・事例研究の進捗状況

- ・ T T、その他指導法の情報収集報告（仙台市訪問）
 - ・ 学習困難調査票
- 5月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 民間機関（YMCA）での研究計画
- 6月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究
 - a) 5月8日の運営会議報告
 - b) 各研究協力校での研究の実施
対象事例の抽出、専門家チームでの判断、指導の展開、研究プロジェクトの広報
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - 学習・協議会
「学習障害児の算数困難と算数指導」熊谷恵子氏（筑波大学心身障害学系）
- 7月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究：協力校での広報、対象事例の抽出、巡回指導の報告
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
- 9月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究：対象事例の実態把握開始
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - ・ 13年度協議会の日程調整
 - ・ 横須賀市教育研究所の動向
 - ・ 14年度「学習障害児等指導者専門講習会」について
- 10月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究
 - a) 神奈川県学習障害調査研究専門部会報告
 - b) 協力校での対象事例の実態把握
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
- 11月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究：協力校での保護者向け研修会開催、対象事例の判断（専門家チームによる報告）
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - 学習・協議会

- 「学習障害児の理解と指導～認知神経心理学の立場から～」宇野彰氏（国立精神神経センター）
- 12月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究：専門家チーム報告書提示について
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - ・ 13年度研究協議会について
- 平成14年
- 1月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究：対象事例の決定と評価の進捗状況
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - ・ 13年度研究協議会の日程決定
- 2月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究
 - a) 協力校でのケース担当者会議
 - b) 第2回神奈川運営会議（1月25日）
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - ・ 13年度研究協議会のプログラム等について
 - ・ 最終報告書案の検討
- 3月
- 全体会
 - ・ 神奈川県との共同研究：今年度の反省と来年度（事業終了後）の体制
 - ・ 事例研究の進捗状況
 - ・ 東陽町YMCAでの研究状況
 - ・ 13年度研究協議会の準備・作業に関する最終確認
 - ・ 最終報告書案の検討
 - ・ 学習障害事業実施都道府県訪問について
 - 学習・協議会
「学習障害児の社会性指導」牟田礼子氏（成蹊大学）、笹森すみえ氏（川崎市立西野川小学校）
 - 研究協議会開催 3月15日

【14年度】

- 平成14年
- 4月
- 全体会
 - ・ 13年度協議会の反省
 - ・ 文科省平成12年度・13年度学習障害等に対する指

導充実事業委嘱県視察報告：岡山、神戸、香川、和歌山

- ・14年度研究計画：12年度全国センター調査の追調査
- ・事例研究の進捗状況
- ・最終報告書について（案1）

5月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・12年度全国センター調査の追調査
- ・最終報告書について（案2）

6月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・夏の学習障害専門家養成研修について
- ・調査研究：学習障害事業に参画した担当職員等に対する調査計画

7月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・調査研究：学習障害事業に参画した担当職員等に対する第一次調査案

9月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・調査研究：学習障害事業に参画した担当職員等に対する第一次調査実施報告
- ・最終報告書について（案3）
- ・研究代表者の転出にかかる事項

10月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・最終報告書について（案4）、原稿執筆者の決定

11月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・最終報告書について
- ・14年度協議会の開催と日程について

12月

- 全体会
- ・事例研究の進捗状況
- ・最終報告書目次決定、原稿締め切り等
- ・協議会日程決定報告

平成15年

1月

- 全体会
- ・報告書の作成日程確認

- ・協議会内容について

2月

- 全体会
- ・報告書の印刷・校正日程
- ・協議会プログラム・役割分担

3月

- 全体会
 - ・報告書校正経過
 - ・協議会プログラム・役割分担
- 研究協議会開催 3月17日